

人口減対策は集落単位で

富士見町議会は、副知事の中島恵理さん（乙事在住）を招いて、議員勉強会を開きました。中島副知事は「信州の地方創生戦略」富士見町の持続可能な地域づくりに向けて」の演題で講演。長野県は、信州創生の基本方針に「人生を楽しむことができる多様な働き方・暮らし方の創造」を掲げ、信州らしさを伸ばす方策として、「『一人多役』など多様な生き方、自然との共生、人と人が支え合う暮らし方を促進している」と語りました。

■信州の地方創生戦略

前半は、県が策定した「信州の地方創生戦略」の内容を紹介。「信州創生の基本方針」6項目の中から、「一人多役」「信州やまほいく」「地消地産」「小さな拠点」の4つのキーワードをそれぞれ解説しました。

「一人多役」は、「自分自身の生計を立てる仕事に加え、地域のため、自分自身が幸せになるためにも多様な役割を担う暮らし方が重要」との考えに基づくもので、県は、「どんな一人多役のライフスタイルが実践されているのか」の調査を始めています。観光事業をしながら農業、ITをしながら農業など、さまざまな組み合わせがある。「今年度はまず、

中島副知事を講師に迎えて議員勉強会



富士見町の人口減対策などを語る中島恵理副知事

一人多役の実践者を紹介するガイドブック作りも進めている」と語りました。

「地消地産」は、地域で消費されるもののうち、可能なものは地域内の生産品に置き換えていくことです。「富士見町内の飲食店で、町内や地域の中で生産されたものを食べる所は少ない。地消地産の概念を普及し、地域の経済循環を進めたい」と考えています。

空き店舗の問題について「長野県も、空き店舗を活用した地域の活性化事業を進めています。例えば、商店街の空き店舗オーナーと出店希望者をマッチングする仕組みを作り、地域活性化の専門家を派遣する取り

組みを始めている」と語りました。地域公共交通の重要さにも言及。「県内地域どこでも地域交通機関が衰退している中で、今年から、市町村レベルの地域公共交通の取り組みを応援するために専門家を派遣すること」を明らかにしました。

■富士見町の持続可能な地域づくり

後半は、富士見町が「持続可能な地域づくり」に向けて、何をすべきかを語りました。今後、放っておくと高齢化率が高まり、人口が減少する。「人口を増やすために出生率を上げる議論をしているが、それだけで人口減少は止まらない。出生率を上げながら、20代前半の男女、30代前半の子連れ夫婦、60代前半夫婦の移住を増やすことを組み合わせれば、人口は減らず、高齢化率は高くない」との見通しを示しました。

「富士見町全体で取り組むことも必要だが、集落か地域ごとの人口推計などの情報を共有してほしい。地域に危機感があまりないのではないかと指摘。「集落単位で情報を分析し、どのようにして移住者を区民として受け入れていくのかについて考えてほしい」と呼び掛けました。

（川合弘人）

議会全員協議会 町関係の協議事項【1月～3月】

◆1月20日

- ①新年度の地方交付税推進交付金申請と予算計上案を説明
- ②「ゆめの森公園」(仮称)の基本計画に対する住民意見(2件)を説明
- ③故郷Uターン支援「奨学金利子補給制度」を説明
- ④地方移住、地方帰りの現状(資料:国土交通省)を報告

◆2月20日

- ①平成29年度一般会計など当初予算案の概要を説明
- ②3月定例会に提出予定のテレワーク推進事業を説明
- ③空き家活用による新たな移住・定住促進事業を説明

- ④諏訪南リサイクルセンター候補地決定の報告

- ⑤落合保育園改築計画に関する地区説明会資料を公表
- ⑥住民福祉課、建設課の機構改革についての説明
- ⑦後期高齢者医療保険料軽減判定システムの誤りに関する報告

◆3月14日

- ①水道事業・下水道事業の経営戦略を公開
- ②富士見町障害者計画(平成29～32年度)の概要版を説明
- ③地方創生拠点整備交付金の二次募集に関する説明
- ④諏訪広域公立大学事務組合の運営に関する説明